

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4290100017
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム 秋桜
訪問調査日	平成 19 年 10 月 15 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 5 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270101837
法人名	社会福祉法人 平成会
事業所名	グループホーム秋桜
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市滑石6丁目4番3号 (電話) 095-856-2940

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月15日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(平成19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	12.1 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	160 円	昼食 410 円
	夕食	210 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう内科、長崎北病院、むらかみ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置するグループホーム秋桜は、地域密着型サービスとして、運営推進会議においては、利用者家族はもとより、自治会長、民生委員、隣のマンションの管理人などにメンバーになってもらうことなどにより地域住民との協力関係を深めるよう、積極的な取り組みを行っている。
 管理者と職員は、理念や運営方針のもと一丸となり、常に利用者本位の生活について考え、支援しており、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接しており、それぞれの得意分野で力を発揮してもらい感謝の気持ちを伝え、利用者と一緒に楽しみを分かち合いながら個々のペースや個性を活かした支援に取り組んでいる家庭的なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価結果をもとに、これまでは2ユニット合同で行っていたスタッフ会議を、ユニットごとにも開催するように改善の取り組みを行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には、職員一人ひとりが取り組み、意見を出し合いながら検討するなど、サービスの改善や質の向上を目指して、職員全員で取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、自治会長、民生委員、隣のマンションの管理人などの地域住民に参加してもらい、3ヶ月に1回開催し、ホームの活動報告、事業報告、消防訓練などについて活発に意見交換が行われている。議事録も整理しており、出された意見などをスタッフ会議で報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者家族に何でも気軽に話してもらえる雰囲気づくりに努めており、玄関に苦情箱も設置して、家族が意見や苦情を出しやすいように配慮している。また、家族から出された要望などについては、職員全員で検討し早急に解決できるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年、事業所全体でもちつき大会を開催し、地域の人々を招待し、交流を図っているほか、近隣の小学校に呼びかけて、小学生が遊びに来てもらえるように働きかけたり、運営推進会議などを通して、地域住民への働きかけをしたりと、地域住民と協力関係を深められるよう、積極的な取り組みを行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境、住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるため、毎年サービス方針について、理念をもとに職員全員で検討し、見直しを行いながら支援に取り組んでいる。	○	これまでの理念に加えて、今後は地域密着型サービスとしての役割を目指した具体的な理念の検討にも取り組まれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすい所に掲示し、職員は常に確認しながら利用者の支援を行っており、日々の暮らしの中での言葉かけや態度においても理念が反映されている。また、職員会議などでも理念やサービス方針について確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同一建物内の事業所全体で毎年もちつき大会などを開催し、地域の人々を招待して交流を図っている。また、小学生にホームに遊びに来てもらえるように、近隣の小学校への働きかけも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果をもとに、職員全員で改善に取り組んでいる。また、自己評価については職員一人ひとりが取り組み、それぞれの意見を出し合いながら検討するなど、評価を活かしサービス改善や向上を目指した取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、民生委員、隣接するマンションの管理人、市職員、利用者家族を構成メンバーとして、3ヶ月に1回開催しており、議事録について整理し、会議で出された意見などを職員会議にて報告し、話し合いを行っている。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内の施設で市の介護事業を受託していることもあり、常に市の担当者との連絡や関係づくりを密に行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問も多く、その際に、日々の暮らしの様子、健康状態などの近況報告をしている。また、なかなか面会に來れない家族には、定期的な請求書の送付に併せて、日々の活動写真に添え書きをして状況報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者家族に要望や意見などを気軽に話してもらえるような雰囲気づくりに努め、玄関には苦情箱も設置している。家族から出された要望などについては職員全員で検討し、早急に解決するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くため、馴染みの職員によるケアを心がけており、職員の異動の際は、配置前から職員が何度もホームに出向き、利用者顔馴染みになってもらえるように努め、不安や不満がないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修には、なるべく多くの職員が受講できるように勤務時間の調整など配慮している。また、研修に参加した職員は、研修報告レポートを提出して、職員に回覧し研修内容を共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員がグループホーム連絡協議会の研修委員を務めており、その活動を通して事業者同士の協働、交流を図り、学びを深めながらサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者と家族にホームの暮らしぶりを見学してもらったり、まずは併設のショートステイやデイサービスを利用しながら日中ホーム内で過ごしてもらったりして、ホームの生活や雰囲気に馴染めるような支援に努めており、家族や関係者等と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常的に調理や料理の味付の技、工夫を教えてもらう場面も多い。また、得意分野でその人らしさを発揮してもらい、利用者の思いや喜びなどを知ることに努め、共に支えあう関係づくりに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の表情や言葉などから思いや意向の把握に努めており、意向の把握が困難な場合でも、家族から話を聞き、情報収集しながら日常の会話や表情の特徴をつかむようにするなど、理解できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時に近況報告する中で希望や意見を聞き、反映させながら介護計画を作成している。また、アセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、より具体的な介護計画を作成している。		
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しを行うとともに、利用者の状態変化や家族の要望等に応じて随時見直しを行っている。職員の気づきや意見は連絡ノートに記録して、介護計画の見直しの際に検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎などの支援を行ったり、お墓参りや美術館への外出を支援したり、一人ひとりの希望にあわせた柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっており、通院は希望や状況に応じて職員が同行するなどの支援を行っている。また、往診も受けられるように協力医療機関との連携を図り支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援に関する事業所の方針について、入居の際に利用者や家族に説明し、話し合いを行っている。また、体力の低下など変化がある度に、利用者本人の思いや家族の意向などを把握して、方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者一人ひとりに尊敬の念をもって接しており、利用者それぞれに合わせた言葉づかいやプライドを傷つけないような言葉、態度などに配慮して支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して、一人ひとりのペースに合わせて支援しており、起床や食事、入浴の時間について柔軟に対応している。また、美術館に出かけたり、お墓参りに同行したりするなど、利用者の希望にそった支援を行っている。		

長崎県 グループホーム秋桜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者に調理や配膳、片付けなどを手伝ってもらい感謝の気持ちを伝え、利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりを大切にしている。また、食べこぼしのサポートもさりげなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間はだいたい午前中になることが多いが、利用者が希望する日や時間帯に入浴を自由に楽しめるように支援している。また、利用者の体調に合わせて足浴などの支援も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの楽しみや役割を見つけて、得意分野で力を発揮してもらえるよう支援しており、わらじ作りを行ったり、美術館へ出かけたり、お墓参りに出かけるなど、利用者ごとに役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、職員と一緒に毎日の食材の買い物に出かけている。また、天候や体調に配慮しながら、希望に合わせて伊王島や水族館、外食などに出かけるなど、日常的な外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関などに鍵をかけずに、自由な暮らしを支援しており、利用者一人ひとりのその日の気分や状態を把握し、目配りや気配りをしながら安全面にも配慮した支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと、利用者とともに日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で、地域住民の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分の摂取状況は一日を通して記録し、職員間で情報を共有しており、摂取量やバランスなどが十分でない時は、別メニューを作ったり、時間帯をずらして補給してもらったりするなど、利用者の体調や状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広々としており、利用者のお気に入りの椅子やソファが置かれ、ゆったりのんびりと、思い思いの時間が過ごせるよう配慮されている。また、テーブルに草花を飾ることなどで季節感を味わってもらい、手の届く所に新聞や週刊誌などを置き、生活感のある雰囲気づくりに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者の馴染みの調度品や使い慣れた日用品などがあり、その人らしい居室づくりの工夫を施している。		